

令和6年度 江戸川区立南小岩第二小学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	◎ 考える子【学習や生活のいろいろな場面で、本気、根気の持てる子。正しく判断し、創意工夫する子】 ○ 思いのりのある子【人と協働することの喜びをもち、協力し合える子】 ○ 健康な子【元気な心や体をつくる子】	【学校】◎家しく、力のつく学校 ○いじめのない安全・安心な学校 【児童】◎心を育て、自ら進取を促す学校 ○保護者や地域に信頼される学校 【児童】◎正しく判断し、創意工夫する子 ○人と協働することに喜びをもち、協力し合える子 【教師】◎学習や生活のいろいろな場面で本気、根気をもてる子 ○元気な心や体をつくる子 【保護者】◎積極的に家庭教育に協働する教員 ○子どもの可能性を信じてくれる教員 ○子どもを認め、褒め、伸ばす教員 ○公私をわきまえ、公務員として継続的に行動する教員
前年度までの本校の現状	成果 ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を行った。 ICTや外部人材を活用した学力向上に関する取り組みを推進できた。	学力向上・体力向上に関する取り組みを充実させていく。 読書祭の年間指導計画を見直し、確実な実施を行っていく。 ユニバーサルデザインの視点の授業改善をさらに進めていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎・基本の定着	・がんばらんど(週手帳(計算))、二小中学生等の取組の実施 ・家庭学習強化週間の実施 ・放課後学習教室、スッカリタイム(学級毎の放課後補習)の実施 ・保護者ボランティアの協力による基礎タイムの実施 ・個別学習や家庭学習としてドリルパークやまるくランドを活用 ・東京ベージャドリル、区学力定着度調査の実施	・全学年、年5回、実施率100% ・年3回、実施率100% ・年3回、放課後30分程度 ・毎月1回以上、約15分間 ・週1回以上、日常的に活用 ・3年以上、各学期1回 ・保護者満足度90%以上	A	A	・がんばらんどは3回、漢字生1回を実施した。 ・4月、9月のスタディウィークを実施した。 ・放課後補習教室、スッカリタイムは予定通り実施した。 ・ドリルパークは個別学習や家庭学習で日常的に活用した。 ・1学期初、東京ベージャドリル、区学力調査を実施した。 ・6年生定着度調査が昨年より、国算共に25%以上改善した。	A	・良い取り組みだと思ふ。 ・朝の学習時間に充実感を感じる。 ・がんばらんど、漢字生で頑張った分の評価がされる機会があるのが活動につながると思う。 ・放課後補習教室、スッカリタイム等、子供にとってありがたい。 ・保護者も家庭での学力力を入れてほしい。 ・色々な取り組みが実施されている。さらに充実するよう指導をお願いしたい。						
	○進路指導の充実	・巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員及び各担任との情報共有、個別指導への活用 ・保護者への理解の促進、PT	・毎日実施、情報共有実施率100% ・毎学期実施、当該保護者満足度90%以上	A	A	・毎回の指導について情報共有を行っている。 ・1学期に巡回指導の保護者会を実施した。	A	・各教室に落ち着きを感じる。 ・素晴らしい取り組みの傍、保護者も積極的に参加し、指導者へアドバイスを寄せてほしいと思う。 ・巡回指導の保護者会で情報共有し、満足度が高いと感じる。						
	○読書の更なる充実	・年間指導計画に基づく取組をHPで紹介 ・読書意欲の向上  ・読書への関心を高める「よむYOMUワークシート」の実施 ・図書バーコード化の円滑な推進	・各学年、年3回更新 ・読書タイム週2回以上、読書週間年2回、読み聞かせボランティア毎週木曜日実施 ・4年生以上、年3回 ・1学期中に完了 ・学校関係者評価A	B	B	・70%の学年がHP更新を行っている。 ・読書祭、読み聞かせボランティアは予定通り実施した。 ・よむYOMUワークシートの実施率は1学期の計画分はすべて実施した。 ・バーコード化に向けた準備を実施中。	B	・豊富な教室図書の数を感じ思う。 ・読書が根付いてほしい。 ・朝読書、読み聞かせボランティア等の活動が功を奏し、少しでも読書が好きなことを感じる。 ・家庭でも親子での読書に対する試みもしてほしい。 ・他の項目に比べ、達成感が低いように感じる。						
体力の向上	○運動量確保や基礎体力の向上	・二小タイム(運動遊び)の実施 ・運動遊びに生かす、体力テストの結果分析 ・江戸川っ子実践びわく(短縄)二小ひよんぶん大会(短縄、長縄)の実施 ・学期毎の行事(運動会、長縄、持久走)の継続実施	・年間、毎週水曜日 ・1学期の継続びわく、ひよんぶん大会は予定通り実施した。ひよんぶん大会は延べ141名が参加した。 ・運動会も計画通り実施した。紅白対抗など実施計画を工夫し、保護者の評価も高かった。 ・各学年及び練習時間実施率100% ・保護者満足度90%以上	A	A	・期中評価が高く実施できない日もあった。 ・1学期の継続びわく、ひよんぶん大会は予定通り実施した。ひよんぶん大会は延べ141名が参加した。 ・運動会も計画通り実施した。紅白対抗など実施計画を工夫し、保護者の評価も高かった。	A	・運動会や父子イベントにおける児童の発見の様子に感じました。 ・とても楽しそうに活動している。 ・体力向上に取り組みの中で、児童も積極的に感動した。 ・様々な取り組みが実施されていると思うが、児童たちの積極的な参加も嬉しい。運動会等でも評価が良かった事が理解できた。 ・種目ごとの運動する機会が減り、体力が減ることが心配される。						
	○特別支援教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点での学習環境整備 ・ユニバーサルデザインを視点とした校内研究 ・支援シートによる個に応じた対応 ・副都交流等の計画の実施	・教室環境、言語環境整備100% ・年11回実施 ・対象児童保護者の満足度90%以上 ・副都交流等の実施率100%	A	A	・学校で統一して、教室環境を整備した。 ・9月までに4回の校内研究を実施した。 ・副都交流は計画通り実施した。	A	・副都交流を計画的に実施しており素晴らしい。 ・是非とも継続してほしい。						
教育の推進 共生社会への 推進	○体験的・自主活動の推進	・地域人材、外部人材を活用した共生社会実現に向けた教育の推進 ・たてわり班(異学年交流)の実施 ・あいさつ名人、あいさつ運動の実施 ・高学年全員による級毎の実施	・年2回 ・異学年交流年間計画実施率100% ・週1回 ・区民祭り等への参加	A	A	・11月の全校定例に向けて、たてわり班活動を計画的に実施した。 ・あいさつ名人、あいさつ運動は通年で実施した。	A	・たてわり班は上下関係を身近に経験できる良い学びの機会だと思ふ。 ・地域人材、外部人材の活用により、児童も楽しそうに生き生き参加していると感じる。 ・とてもよい活動なので、今後も継続してほしい。						
	○子どもたちの健全育成に向けた取り組み	・「Hyper-Q」の実施及び効果の活用、道徳教育の充実、いじめ防止策の実施 ・校内委員会の効果の実施、全職員での支援体制の構築 ・特別支援教育に係る教員の指導力向上に向けた研修会の実施	・全学年、実施率100% ・毎月実施 ・年3回、参加率100%	A	A	・Hyper-Q研修の実施、1学期に1回実施した。 ・校内委員会を毎月実施している。 ・9月に1回目の研修を行った。	A	・道徳に個人差はつきもののが、考える力を養い、友人との関わりを大切に思ふ。 ・全ての子どもが安心して過ごせるように、引き続き取り組んでほしい。						
不登校の 対応 不登校の 対応	○関係者間との連携によるいじめ、不登校等への対応	・SC(わかわか)SSW(わかわか)との連携、適切な活用 ・課題把握時点での情報共有、生活指導連絡会、各課題対策委員会の実施 ・SNS東京ルールへの徹底、家庭SNSルールでの家庭との連携	・情報共有率100% ・当該保護者満足度90%以上 ・事実把握後1週間以内の行動、成果の検証 ・保護者との連携100%	B	B	・SC、SSWは来校するたびに、情報交換を行っている。 ・いじめの認知する件について、いじめ対策委員会を開催した。生活指導連絡会も毎週行っている。 ・家庭でのSNSルールを作成した。	B	・心の問題は指導が難しいと思うが、SNSはこれからの社会において避けることのできないツールの一つとして、子どもたちには一層よい方を指導してほしい。 ・色々な要因が重なり、対応が難しいが、関係者が連携をして問題解決に向けて、丁寧に対応してほしい。						
	○地域との共育・協働	・HP(はーびー)等による情報公開 ・学校説明会との連携	・各学年、月2回以上 ・保護者満足度90% ・学校関係者評価A	A	A	・計画通りHPの更新している。また子どもによる情報発信も日々行っている。 ・交流委員会と連携して図書館の整備を行っている。	A	・いつもPTA関連や地域ごとの子どもに協力頂き感謝している。 ・地域のイベントに参加する等、交流も大切にしている。						
学校 の 実 現	○学校関係者評価の充実	・学校経営方針の保護者、学校関係者への周知・年度当初 ・保護者アンケートの実施、結果の周知 ・教職員及び学校関係者中間評価による方針の修正及び追加、年度末評価の実施による次年度改善案の立案	・年度当初 ・定期(年2回)、各行事毎(毎回)に実施し、1か月以内の結果周知 ・9月、2月に実施後、改善案を立案 ・保護者の満足度90%以上 ・学校関係者評価A	A	A	・学校経営案は保護者や学校関係者に周知し、HPにも掲載した。 ・保護者アンケートの1回目を実施した。 ・中間評価を行っている。	A	・積極的な関わりを価値として頂いており、素晴らしい。 ・学校評価委員会で丁寧に学校経営方針等を説明して頂けるので、関心を持てる。 ・協力できることが少なく申し訳ない。						
	○学校における働き方改革プラン	・C4thの積極的活用、バーバース定着 ・名分書による文書管理、各部署ルートによる進行管理 ・会議の効率的な実施及び時間短縮 ・SSS(わかわか)等の有効活用 ・定時退勤の実施 ・教科担任制の推進、協働体制 ・育児休業等休暇、休業制度の活用促進	・毎日、C4th活用率100% ・継続実施率100% ・15分以内、継続実施率100% ・活用率100% ・月1回実施、残業月40時間以内 ・5、6月は週年、1〜4月年2回実施 ・教職員への周知100% ・保護者満足度90%以上	A	A	・職員は毎日C4thを活用している。 ・継続実施率100% ・15分以内、継続実施率100% ・1回の会議が15分以上かかる時もあったが、短縮できた。 ・効果的にSSSを活用している。 ・80%以上は残業40時間以内だった。 ・計画的に教科担任制を行った。 ・10月末から育児職員が専任取得予定。	A	・全体的な時間短縮は望ましいと思う。また、教科担任制は子供の興味を引き出せると思われるので継続を望む。 ・働き方改革について工夫されている実施率も高く、素晴らしい。						
教育の 特色 の 実 現	○教員の授業力向上	・巡回の指導計画に基づく教育活動の計画的実施及び反省の記載 ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業の実施  ・ICT関連教員研修会…年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用	・毎週、活用率100% ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業の実施  ・ICT関連教員研修会…年5回 ・年5回以上、実施率100% ・毎日、活用率100% ・保護者満足度90%以上	A	A	・授業を毎週進めさせているが、慣れてしまう教員もいる。 ・校内研究授業実施、区小教員全教員参加100% ・校内研究、区小教研には全員が参加している。 ・9月までに3回のICT研修を行った。 ・職員は授業の中でiPadを効果的に活用して授業を行っている。	A	・児童と関わり合うのに喜びを感じている。 ・様々な取り組みを併せて、高い成果が見られる。 ・色々な項目の達成度が向上していく中で、先生方の努力や熱意を感じる。						